

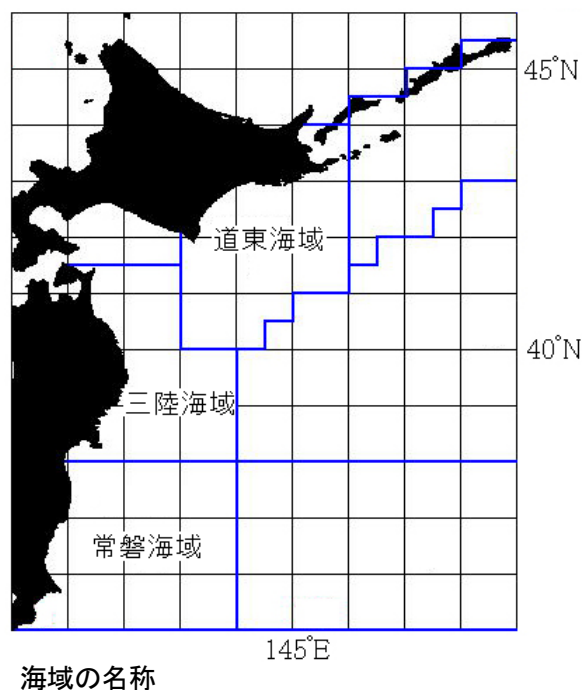
平成23年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2011年10月上旬～11月中旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月上旬～中旬における来遊量は、中位水準で推移する。
- ・三陸海域では、10月上旬は低位水準であるが来遊がある。10月中旬まで低位水準で推移する。
- ・常磐海域では、来遊時期は平年よりも遅く、11月上旬になると断続的ではあるが来遊がある。
(但し震災の影響により操業が行われるか不明である)



問い合わせ先

社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/index.html>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成23年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2011年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

10月上旬～中旬は中位水準で推移する。10月中旬から徐々に減少を始め、10月下旬は低位水準となる。11月中旬には断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

10月上旬の主漁場は、落石～厚岸沖であるが、襟裳岬沖の沖合を南下する親潮沿いにも断続的に漁場ができる可能性がある。落石～厚岸沖の漁場は10月下旬まで持続する。11月上旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となり、11月中旬は襟裳岬沖に断続的に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月上旬は低位水準であるが来遊がある。10月中旬も低位水準であるが、来遊量はゆるやかに増加する。10月下旬～11月中旬は中位水準となる。

(2) 漁場

10月上旬は、三陸北部に漁場が形成される可能性がある。10月中旬は三陸北部に漁場が形成され、10月下旬～11月中旬は北部～南部にかけて漁場が形成される。

3) 常磐海域（予測の根拠は「4. 常磐海域の来遊予測について」を参照）

(1) 来遊量

11月上旬は断続的ではあるが来遊があり、来遊量はゆるやかに増加する。11月中旬まで低位水準で推移する。

(2) 漁場

現在、福島第一原子力発電所より半径100km圏内では、操業の自主規制が行われている。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位水準	中位減少	低位減少	低位減少	断続的
	漁 場	落石～厚岸沖 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	釧路～ 襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位水準	低位増加	中位増加	中位水準	中位減少
	漁 場	北部	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向				断続的	低位増加

3. 漁況の経過概要（9月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年並みの低位水準であった。漁獲は散発的であった。

道東海域よりも北東側の花咲港東北東～東南東沖における来遊量の水準は、9月上旬より増加し、昨年同期よりも上回った。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は増加した。

(2) 漁場

道東海域よりも北東側の花咲港東北東～東南東沖が主漁場であり、道東海域では落石南東沖に漁場ができた。落石南東沖（15～17℃）では、16日夜以降、小型船主体で大型船も操業を行った。漁獲量は10ト前後の船が多かったが、18日夜には大型船で70ト程度漁獲した。なお道東海域よりも北東側の、花咲港東北東～東南東沖（13～19℃）では多くの船が操業した。漁場は花咲港から日帰り操業できる場所であった。

(3) 魚体

道東海域では、31cmモードの大型魚主体であったが、27cmモードの中型魚がやや多く混じる時もあった。体重150～170g台が主体であった。

4. 常磐海域の来遊予測について

現在、福島第一原子力発電所より半径100km圏内では、操業の自主規制が行われている。よって、本中短期予報では、来遊量の予測は例年の手法に準じて行うが、漁場の予測については行わない。

本予報では、常磐海域への魚群の来遊時期は平年よりも遅く、11月上旬になると予測しているが、その根拠は以下の通りである。

2011年6月～7月に東経143°～西経177°の海域で東北区水産研究所が北海道教育庁北鳳丸（用船）を用いて中層トロールを使った漁獲調査の結果では、サンマは東経163°以東で主に採集され、160°以西の日本沿岸では非常に少なかった。2008年以前は東経155°以東で分布が多かったことから、今年は昨年ほど極端でないものの、例年（2008年以前）に比べて沖合にサンマが多く、分布域が東側に偏っていたと考えられた。一方、本調査結果から推定した東経143°～西経177°における推定資源量は、重量ベースで253万トンと昨年の135万トンを上回り、尾数ベースでも286億尾で昨年（138億尾）を上回った。

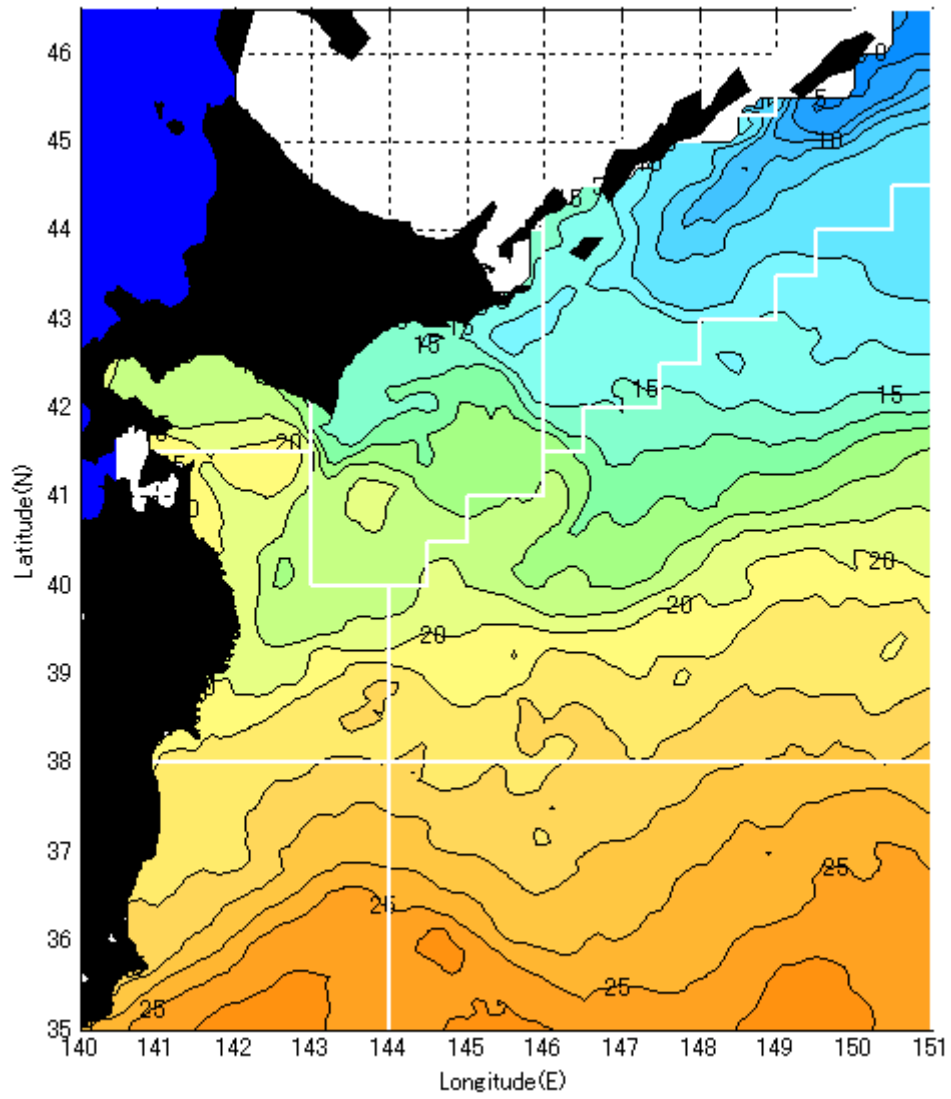
9月中旬までの水揚量の動向を見ると、昨年を上回るものの一昨を下回った。また、来遊量水準は、昨年を上回るものの低位水準であった。9月中旬の主漁場は、花咲港東北東～東南東沖であり、道東海域では落石沖に散発的に漁場が形成された。9月下旬に入り台風15号が通過した後は、落石沖でも群がややまとまるようになり、9月24日には道東4港（花咲・浜中・厚岸・釧路）の日別合計水揚量が過去最高を記録した。これらの事から、沖合に分布したサンマの群が昨年よりもやや早く漁場に来遊し、来遊量は昨年よりも多いと考える。

現在、道東海域の落石南沖と三陸海域の金華山東沖に暖水塊が存在する。三陸海域の暖水塊は、魚群の南下を妨げるような場所ではない。一方、道東海域の暖水塊の南東側から親潮系水が襟裳岬南東沖まで張り出しているが、9月下旬における道東海域の表面水温は、昨年よりも高い。この影響により、今年は9月27日夜に襟裳岬沖に漁場が出来たものの、主漁場は花咲港東南東沖～落石沖であり、魚群の南下時期が遅れている。本中短期予報結果では、水温が高いことも影響し、三陸南部は平年よりも遅く10月下旬になって漁場が形成される。予測水温分布図では、常磐海域で全般的に水温が高く、11月上旬になると例年漁場が形成される18℃台が広がる。以上のことから、常磐海域への魚群の来遊時期は、平年よりも遅く11月上旬になる。

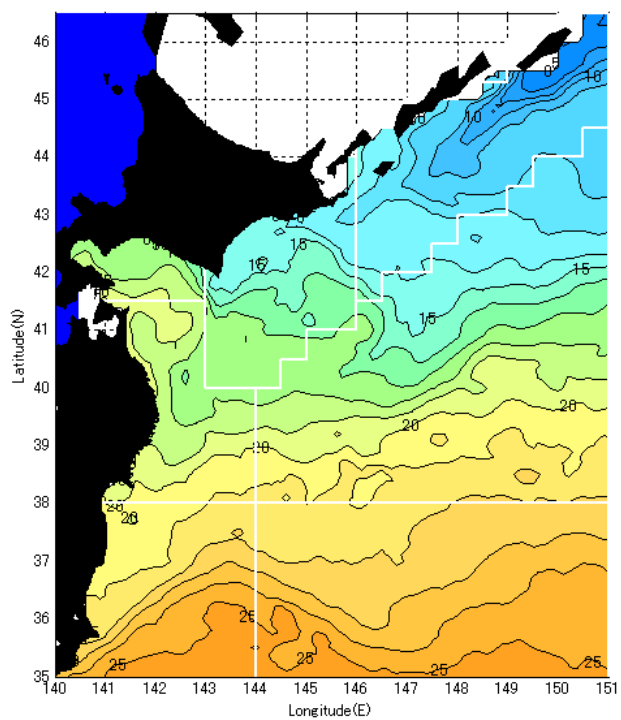
なお、東北区水産研究所の漁期前調査結果および9月中旬における水揚物の体長組成は、大型魚主体であった。よって常磐海域における魚体は、中小型魚が混じるものの、大型魚主体で推移する。

5. 予測水温分布図

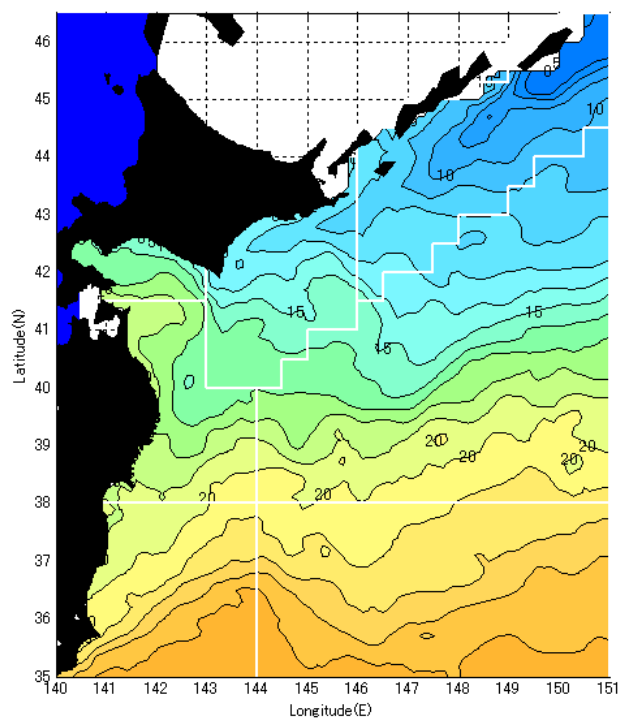
10月上旬予測水温分布図



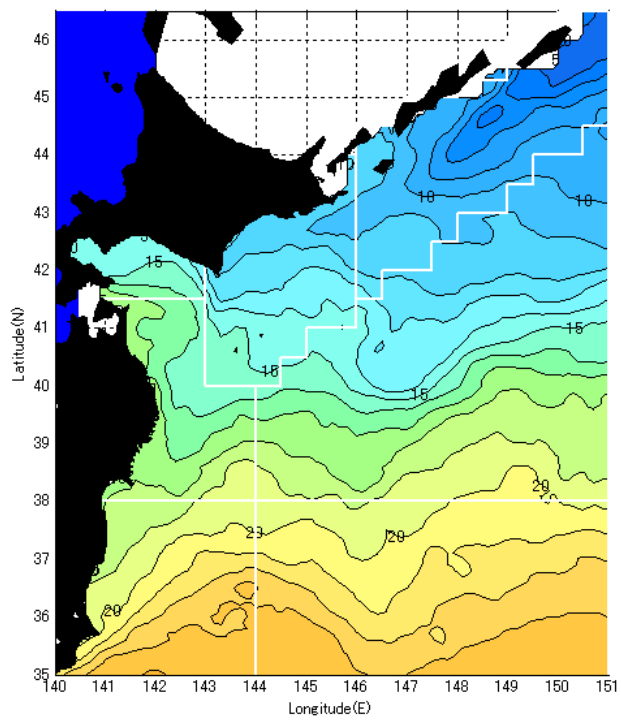
10月中旬予測水温分布図



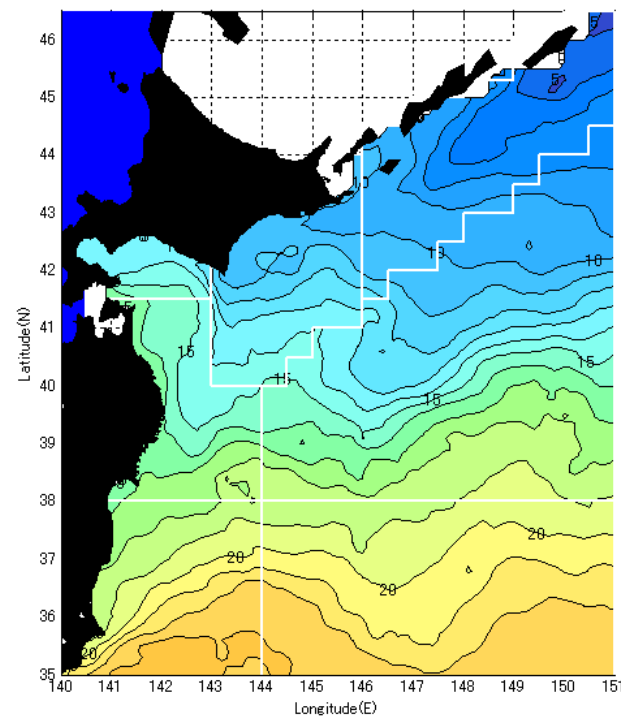
10月下旬予測水温分布図



11月上旬予測水温分布図



11月中旬予測水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	--